『鶴見』の工事の失態を楯にとりて

大阪鐵工所の職工が増給を要求する魂膽

工所にて目下工事中にして、大騒ぎをした事がある、又去の特務艦鶴見は、艦の引渡し期日を約一週間も過ぎて居るが鐵の安い爲工事が捗どらないといふ事實を吹聽し、同艦が試運轉の際、汽繩へ打つた鐵の數が少い爲め、汽繩が破裂する模様である（大阪電話）

失敗

に歸したので、出張の艤裝委員は、受取りを拒絶した事があると云ふので、職工側は之に贊成等の應援演說あり何れも滿場中止を喰らひ最後に大阪勞武士組合の代表中川德三郎氏に起ち玆に西亞を例に引き何故露西亞は斯く爲りしかと述べんとしたる處直に中止を喰らひたる爲

場内騒然

となり警官の橫暴を叫びヤレ〳〵の叫聲起つて形勢不穩と見てとつた今井署長は突如演壇に立ち上つて解散を命じたり

警官橫暴

を叫びつゝ解散したるが當日船渠會社は小山栄安課長多數の警官を指揮して嚴戒に當り居たり尚本日は同職工の給料支拂日なる爲一騒動あるべく豫期せられ居るが支給時間は午前九時

船渠職工の騒動依然

郵船會社や重役邸を襲ふ

又も警官と衝突

演說會解散を命ぜられ

横濱船渠の勞働爭議は、白熱化し各地より勞働團體の應援により氣勢を揚げつゝあるが、昨日午前十時約六百の職工は、目下の工事場たる同會社の船渠を閉鎖し、會社本部に集合し、先頭に

日本郵船會社

の横濱支店を指して櫻木町大通りを一直線に進行を開始せるが、急を聞きたる警察本部にては直に櫻木町移民檢査所に控へたる警官五十餘名を櫻木町驛前に急行せしめ附近一帶に非常線を張り職工團を食ひ止めんとしたるが職工團之に屈せず、武裝を解かんと企てたるも及ばず解散を命ぜられ餘儀なく同所を引返し、警戒線なき福島町通りを迂廻して警官隊を撒き、海岸通りの郵船會社支店に到着し

支店長に

面接して事情を訴へたるに同情すとの挨拶つありたるも不得要領なりとて一同は同所を引揚げ會社重役たる石川德右衛門宅に押し寄せ面會を求めたるも不在の爲之亦不得要領に了り正午三々伍々組合本部に引き揚げたるがそれより戸部町戸部常設館にて演說會を開催する事となり職工團は續々入場午後一時頃には大入りを占め今井戸部署長臨官席に着き幹事の開會の辭に次で東京各鐵工組合よりの

代表員等

の熱辯あり當日應援團の先驅として來演したる足尾銅山坑夫組合の代表上原清太郎日本坑夫聯合組合代表義野政正氏等の應援演說あり何れも滿場中止を喰らひ最後に大阪勞武士組合の代表中川德三郎氏に起ち玆に西亞を例に引き何故露西亞は斯く爲りしかと述べんとしたる處直に中止を喰らひたる爲

場内騒然

となり警官の橫暴を叫びヤレ〳〵の叫聲起つて形勢不穩と見てとつた今井署長は突如演壇に立ち上つて解散を命じたり

警官橫暴

を叫びつゝ解散したるが當日船渠會社は小山栄安課長多數の警官を指揮して嚴戒に當り居たり尚本日は同職工の給料支拂日なる爲一騒動あるべく豫期せられ居るが支給時間は午前九時

郵船修繕船を海軍ドックで引受く

船渠爭議解決遠し

横濱船渠會社に於ける勞働爭議は同社の態度が手強く容易に解決しそうもないので横須賀海軍工廠の手に修理を依頼する事とし六日朝加賀丸を始め加茂丸香取丸の三隻は軍港に入港し船渠に入渠した

注文品や内金を片ツ端から横領

全部賭博に消費す

物騒極まる裁縫職

東京赤坂區田町二の二一 當時市内北方町二〇 洋服裁縫職 （当）は窃盗詐欺 前科二犯を有する強の者にて昨年十一月中數回に亘りて翁町二の四二 絲商岩見平治郎方より仕立方を依頼されし 用カワウソの襟及外套九點外縫品數點を横領し不老町一の九一 中里質店に百十圓にて入質し

全部賭博

に費消し大正九年十一月 木牧町小湊一八 豚鳥業より二重廻しの新調方を依頼され手付金五十圓を受取りて其儘行方を晦ませ本年一月十日根岸町三二五七 飯鉢小堤緒より洋服の仕立方を頼まれし 紗六十圓及工賃として金二十八圓を受取りて

其儘橫領

し元町五ノ一 六人夫請負 山本松太郎より筒外套を頼まれ内金十五圓を受取りて 昨年十二月中旬頃 木牧町

中村吉次郎より二重廻し百圓の裁方を依頼され四十五圓にて買入たるを三十五圓にて買り内金二十圓を受取り置きたりとて該金を着服し其の差額を

横領した

る事實發覺し 程ヶ谷輪下邊を縄張中山手署の小松刑事に捕はれ取調の結果前記の犯罪を申立てたるも尚餘罪ある見込にて嚴重取調中なり

罷業職工の一團

郵船支店へ押掛く

又も二三名檢束さる

横濱船渠の爭議益々揉める

横濱船渠爭議團は六日朝解雇職工中四十名分の解雇通知書を會社に突返し爭議團と解雇職工團の二手から新に委員を擧げて交涉を開始した

去る廿一日から既に二週間に亘り爭議の結果職工は生活の脅威を受け警察官の防遏と會社側の切崩しで軟化者を出しさうだが尚氣勢旺んへすべく六日午前十時半逃亡中の爭議團本部から約三百の示威行列を繰出し郵船會社横濱支店へ向ふ途中綉天橋で數百の警官隊に阻止され小競合ひの後一旦解散したが數十名の職工は間もなく郵船支店に押かけ代表者北山外數名は川口支店長植村副長に面會し船渠の大株主たる郵船會社は此際相當の講符をなすべきであると質問した所支店長から出來得る限り盡力すべしとの挨拶あり一同之れを諒として引揚げ

警戒網を潜つて老松町の市長公舍前に示威行列を行つた、一方東京からの應援の一部は櫻木町驛で警官隊のために追ひ返へされたが足尾坑夫同盟の應援團は檢擧を懼れて午後一時から戸部常設館で演說會を開いたが數百の制服私服警官警戒物々しく正午頃會社に示威運動に出かけた約二百の職工團と警官隊と小競合あり二三名の檢束者を出した（横濱來電）

中止々々々

横濱船渠罷業職工團演說會

横濱船渠の職工が五日警官隊と大衝突を演じたとは既報の通りであるが昨朝の衝突に氣勢を揚げた横濱船渠罷業團の職工は正午頃から續々藤田新宿の忠孝館に乘り其數七百名に達し晝夜不穩と見て場外には二百名の警官が嚴重に固めた午後一時罷業團の幹部によつて開會を宣し各委員より悲痛な報告が終ると各組合より還出した廿數名の紳士交々熱辯を揮つて會社の無誠意さの日の警官の橫暴を鳴らしたが大部分演說半ばで中止を喰ひこの演說會も壓迫をもつて終つた

午後四時半會場を出た職工團約五百名は二本の組合旗を先頭に新宿の大道に出づれば東京から應援に

足尾坑夫同盟會からも應援

本日演說會再開

罷業職工團は愈々持久戰を行ふ覺悟をして二百餘名の行商團はお手のもの、夥かけ屋を始める者、肩に味噌屋、小間物屋、慢頭賣等を始め續々と市中を賣り廻つて居るので船渠行商團の白襷職工賣子は市中の一名物となつて大繁昌をして居る今六日足尾坑夫同盟會より約十名來援し更に勞働同盟より新銳を迎へて正午から戸部町常設館で演說會を開くと（横濱來電）